

平成17年度 情報工学コース卒業研究報告要旨

外山 研究室	氏 名	今 井 一 裕
卒業研究題目	日英翻訳における訳語統一支援手法	

近年、様々な分野において日本語の文書が外国語に翻訳されている。その際、同一の分野内の翻訳であれば訳語が統一されていることが望ましい。しかし、現実には複数の訳者によって翻訳された場合には、異なる訳語が用いられることが多い。例えば、これまで日本の法令は、関係府省や民間により個別に翻訳されてきているため、関連する法令であっても、同じ法律用語が異なる訳語に翻訳されており、そのため、内容を正確に理解できない場合がある。その問題に対して、現在、政府では、翻訳の基準となる標準対訳辞書の作成が進められている。今後の翻訳はこの標準対訳辞書に沿って行われることになるが、既に翻訳されたものに対しては、最初から翻訳し直すよりも標準対訳辞書の訳語と異なる部分を修正することによりコストを小さくすることができる。

そこで本研究では、日英翻訳における訳語の統一を支援することを目的とした訳文添削システムを提案する。具体的には図1のようにMS-Wordの添削履歴機能を利用して実現した。

このシステムでは、日本語文とその英訳文を1行ずつ互いに表示する。その中で標準対訳辞書に沿って翻訳されている箇所は、日本語文・英訳文共に太字で表示する。また、標準対訳辞書と異なる翻訳がされている箇所は、あらかじめ自動推定した不適訳リストを用いて、標準対訳辞書に登録されている訳語に置換する。さらに、英訳文中の訳語が標準対訳辞書にも不適訳リストにも含まれない場合は、日本語文中の見出し語に背景色を付け表示する。また、それぞれの箇所にカーソルを合わせると、ポップアップにより訳し分けの基準など辞書の内容を表示する。これによりユーザは手軽に辞書を参照することができる。これらの表示は、wordMLスキーマのタグを該当する箇所に付与したXMLファイルを出力することによって実現した。本システムを利用することにより、訳語が統一された翻訳文書の作成が容易になる。

評価実験として「労働基準法」とその英訳文書に対して本システムを適用したところ、日本語文中に出現する見出し語を97.0%の精度で発見できた。また、発見した見出し語に対する訳語との対応付けは、精度95.7%、再現率70.5%であった。以上より、本手法の有効性を確認した。

なお、現在、政府ではこのシステムを用いた翻訳が進められており、今年度中に14本の法令の翻訳が公開される予定である。

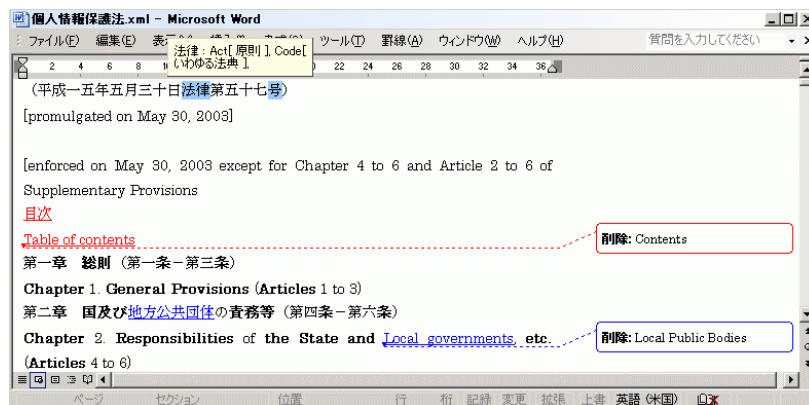


図1：訳文添削システムの概観